

令和3年度実績報告分

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	好日苑		施設番号	K-184
項目	評価結果に基づく現状分析 (令和3年度)	改善計画 (令和3年度末時点)	実施状況(予定を含む) (令和4年4月30日時点)	左記実施状況に実施予定があつた場合の実施状況 (令和5年4月30日時点)
PDCAサイクルに沿った研修体制について	今後の研修は、PDCAサイクルに沿って継続して活用及び更新する体制を構築していく事が求められる。施設では、好日苑育成システムや充実した研修体制があり、特養の内部研修体系が整備されている。職員等は研修や自己研鑽等を業務に反映している。今後はPDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルに沿って、継続的に活用・フィードバックをおこない、全職員が共有できる体制及び見直しする体制を構築していく事が求められる。研修終了後も、受講の学びを各フロアで活かすため、参加者同士でチームを作り、職員個人に対して、課題を科し期間を設けて振り返る等、実際のケアや職員育成につなげていく事が求められる	研修で得た知識を施設全体で活用し利用者支援や職員育成に繋がるよう、研修受講者の研修報告書を基に、研修受講者が講師となり、内部研修及び勉強会を実施していく体制を整えていく。	1 実施済み ② 実施予定(令和4年4月ごろ) 具体的には以下のとおりです。令和4年度の研修計画に沿って、職員の外部研修等の機会を提供し、その研修を受講した職員が講師となり、内部研修や勉強会を企画、実施し、ケアの質向上及び職員育成に繋げていく予定。	① 実施済み (令和4年度) 具体的には以下のとおりです。令和4年度の研修計画に沿って内部研修及び外部研修を実施しました。研修で得た知識や技術を施設全体で共有が図れるよう、受講職員が主導となり勉強会等を実施、期間を定めて評価を行い、複数回に分けて勉強会を開催しケアの質向上及び職員育成に繋げる事が出来ました。
無資格・未経験者の育成について	介護職員の必要性が常態化している中で無資格・未経験な職員へのサポート体制とOJTを実施し、さらなる支援技術の向上に期待したい。感染症対策を継続していく中で日々の利用者の暮らしが、その人らしい暮らしになっているか確認している。重度化の進行や認知症の進行から利用者の体調管理などの難しさを感じている。認知症ケアを多職種と連携を図りながら穏やかな日常生活に向け職員は努力してきた。今回、介護職員の必要性が常態化している中で無資格・未経験な職員の受け入れをおこない、日々、OJTを実施しながら職員育成に取り組んでいる。今後も適切な人員配置を行うとともに、継続して多職種と連携しながら、職員育成を実施し、さらなる支援技術の向上に期待したい。	資格取得支援の一環として、東京都の補助事業である「介護職員就業促進事業」への参加を継続し、無資格・未経験者が安心して働きながら初任者研修等の資格取得が行えるよう支援していくと共に実務者研修についても「好日苑校」を開校し職場内で資格取得の勉強が受けられる体制を維持。	① 実施済み ② 実施予定(令和4年5月ごろ) 具体的には以下のとおりです。令和3年度は、就業促進事業において無資格・未経験者1名を採用。無事に初任者研修の受講を終了する事が出来ました。また令和3年度中に4名の実務者研修を好日苑校を開校し実施。4名共に無事に実務者研修を終了する事が出来ました。令和4年度も東京都就業促進事業への参加申し込みを実施するとともに、実務者研修受講希望者に対して好日苑校の開校を予定していく。	① 実施済み (令和4年7月) 具体的には以下のとおりです。令和4年度も1名の無資格・未経験職員を東京都就業促進事業を活用して採用し、初任者研修の受講を修了し無事に常勤職員へ雇用変更もする事が出来ました。
最先端技術の早期導入について	介護職員等の業務の負担軽減・オペレーションの効率化や、環境レベルでの実用化を目指している最先端技術導入の早期の実現に期待したい。近年は、医療ニーズの高い重度の要介護者や認知症高齢者の利用者が増える傾向にあり、多様なニーズに合わせたケアが求められている。介護現場では慢性的な人手不足で、介護業務の負担増加が問題になっている。介護職員の負担軽減・オペレーションの効率化を図るために、介護ロボット等を導入し、現場レベルでの実用化を目指しているが、設備環境整備の遅れに伴い、ICT(情報通信技能)に支障をきたしている。Wi-Fi等の設備環境を整備し、介護ロボット等の実証を実施して環境レベルでの実用化を目指す最先端技術導入の早期の実現に期待したい。	厚生労働省が主催している「介護ロボットプラットフォーム」事業への継続的参加と東京都の補助事業である「次世代介護機器導入支援事業」への参加を計画する共に、委員会にて介護ロボットの適正活用について管理(評価と課題抽出)を行っていく。また中期経営計画にてWi-Fi等の設備環境の導入に向けて計画していく。	① 実施済み 2 実施予定(年 月 日) 具体的には以下のとおりです。「次世代介護機器導入支援事業」を活用し移乗用ロボット「Hug」を2台導入。ノーリフティングポリシートスクフォース(NPTF)委員会にて使用方法と対象者の選定を行い、実際にケアに活用。毎月の委員会にて使用状況の把握と課題抽出を行っています。またICT化については介護ソフトの「Wincare」やサイボウズの活用を継続し業務のスマート化を実施しています。	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。

※この様式は、「令和3年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「ときよう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。

令和4年度実績報告分

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	好日苑		施設番号	K-184
項目	評価結果に基づく現状分析 (令和4年度)	改善計画 (令和4年度末時点)	実施状況(予定を含む) (令和5年4月30日時点)	左記実施状況に実施予定が あった場合の実施状況 (年4月30日時点)
取り組みの 重点ポイントを 絞り込み職員が 実感できる 特長に成長させ ることが期待さ れます	5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)や ノーリフティングケアなど多様な取 組みを事業計画に明記し取り組んで います。職員には説明会や研修を通 して周知しているものの、職員にとっ て新しい言葉も多く実践への理解が つながりにくい印象があります。今 後、現場の職員が意識する重点ポ イントを絞り込み、確実に浸透し、徹底 し、継続的に微調整をしながら維持 することに重点をおき、さらに一人 ひとりの職員が自信をもって特長と して意識できるよう取り組むことが期待 されます。	令和5年度の事業計画において、目 標の明確化及び分かり易さを意識し た記載内容に変更し職員一人ひと りが自信を持って目標に向かって取 組めるよう改善していきます。	① 実施済み 2 実施予定(令和4年4月ごろ) 事業計画で達成すべき6つの目 標を打ち立て、自分たちが取り組 むべき内容をより分かり易くした事 で、4月の事業計画説明時に職員 からも自分たちが取り組むべき目 標が非常に分かり易かったと意見 を頂いています。今後もご入居 者様の安心と暖かさの提供の実 現に向けて、職員一人一人が自 信を持って取り組む事が出来るよ う改善を重ねていきたいと考えて おります。	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。
ケアプラン で特に重 点的に取 組むこと 、どのよ うな状 態変化 の経過 を記録 に残す 必要が あるか 整理し 、連動 性を持 たせる ことが 期待さ れます	機能訓練、自立支援促進、排せつ支 援計画、褥瘡マネジメント、栄養マ ネジメント、口腔機能維持などの各 種加算の項目と連動したサービス内 容がケアプランに位置付けられてい ますが、各種計画書を参照すること が明記されているため、具体的なケ ア内容になっていません。また、項 目ごとのサービス内容が多いため、 その中で特に重点的に取り組むこ と、どのような状態変化の経過を 記録に残す必要があるか分かりにく い状況と推察されます。ケアプラン の各項目の具体化とその内容と連 動した記録を残せるような取組み を検討することが期待されます。	ケアプランにおいて、機能訓練、自 立支援促進、排せつ支援計画、褥 瘡マネジメント、栄養マネジメント、 口腔機能維持などの各種加算の項 目を記載しておりますが、より取 組むべき内容をケアプランのサー ビス内容に反映させるよう、重点 的に取り組むべき内容をケアプラン のサービス内容に記載し、ケア プランの各項目の具体化に取 組んでいきます。	① 実施済み ② 実施予定(令和4年5月ごろ) 第三者評価結果報告以降で開 催したサービス担当者会議にお いて、各加算項目の重点的に取 組むべき内容をケアプランのサー ビス内容に反映させる事で、取 組むべき内容がより具体的となり 、ケアの質の向上及び記録との 連動性を持たせることが出来ま した。今後評価を行っていく予 定です。	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。
			1 実施済み 2 実施予定(年 月ごろ)	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。

※この様式は、「令和4年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「ときよう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。

様式4

私たちの施設は、都からの補助や介護報酬、利用者からの利用料等によって運営されています。

<特別養護老人ホーム>

施設名	好日苑	施設番号	K184
-----	-----	------	------

令和4年度における施設データ

総事業費（事業活動支出）	657,790,596円
人件費	437,496,102円
定員数	138人
利用者数（令和5年3月31日時点）	137人
常勤職員数（令和5年3月31日時点）	79人
非常勤職員数（令和5年3月31日時点）	33人

施設の収入（特別養護老人ホーム経営支援補助金の状況等）【令和4年度実績】

介護報酬	529,380,672円
その他利用料	135,694,346円

東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付額（都独自の運営費補助）		5,540,000円
基本 分 評 価 加 算	①施設整備等に係る経費の補助（施設振興費）	0円
	②医療対応強化支援加算	200,000円
	③努力・実績加算	4,740,000円
	④第三者評価の受審・サービス向上に向けた計画策定	第三者評価又は利用者調査 600,000円
	⑤その他加算（小規模施設加算等）	0円

※ この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱等」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※ 事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、閲覧を希望する方に公開しています。